

20092

SFA の高度石灰化を伴う CTO に対して CROSSER が有用であった一例

<sup>1</sup>社会医療法人 天陽会 中央病院、<sup>2</sup>社会医療法人 天陽会 中央病院

喜田 佳介<sup>1</sup>、上森 光洋<sup>1</sup>、中原 三佐誉<sup>1</sup>、上籠 快<sup>1</sup>、染川 宜輝<sup>1</sup>、宮田 翼<sup>1</sup>、福山 歩美<sup>1</sup>、桐原 和也<sup>1</sup>、高岡 順一郎<sup>2</sup>、宮村 明宏<sup>2</sup>、厚地 伸彦<sup>2</sup>、有馬 良一<sup>2</sup>、加治屋 崇<sup>2</sup>、福永 研吾<sup>2</sup>、二宮 登志子<sup>2</sup>

EVT (End Vascular Treatment)において高度石灰化病変にはガイドワイヤーやマイクロカテーテルを進める際に病変部を通過出来ず不成功となる症例がある。このような病変に対し、当院では2015年より Crossing デバイスである CROSSER を導入した。症例は、86歳女性、HT(+ )DM(- )HL(+ )喫煙(-)、エコー所見では Rt. SFA の閉塞病変(CTO:Chronic Total Occlusion)、ATA 分岐部まで血流は認められていなかった。高度石灰化病変を伴う CTO に対して Balloon Catheter の不通過により一度は EVT を断念したが、CROSSER の使用によって Balloon Catheter を Delivery し、Stenting に成功した症例があったので報告する。